

令和元年度 第2回府中市子ども家庭支援センター運営会議 会議録

- 1 日 時 令和2年2月18日（火曜日） 午後2時から午後3時45分まで
- 2 会 場 府中市子ども家庭支援センター ミーティングルーム
- 3 出席委員 西郷会長、河野委員、鈴木委員、石井委員、清水委員、糟谷委員、玉置委員、若林委員、新妻委員、若山委員、市川委員、成川氏（発表者）
- 4 欠席委員 大伴副会長、山科委員、原田委員、吉田委員
- 5 出席職員 （子ども家庭支援課）岩田課長兼子ども家庭支援センター所長、石田課長補佐兼 母子保健係長、伊藤相談担当主査、石川相談担当主任、武井相談担当主任、原田事務職員、縄稚事務職員
（社会福祉法人多摩同胞会）畑山子ども家庭支援センター長、寺嶋子ども家庭支援センター次長
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 議 事 (1) 挨拶
(2) 議題
ア 令和元年度府中市子ども家庭支援センター事業の実績報告（令和元年12月末現在）について
イ 子育てひろば交流会「ひろげよう！子育てひろばのわ」について
(3) その他

8 議事録（要旨）

○事務局 皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただ今より令和元年度第2回府中市子ども家庭支援センター運営会議を開始いたします。

本日はお忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。

会議の開始に当たりまして、会議後に会議録を作成するため、会議中の音声を録音させていただきますのでご了承ください。

続きまして、配付資料を確認させていただきます。机の上に置かせていただきました、上から「席次表」「次第」「資料1 平成30年度・令和元年度事業実績」「資料2-1 第10回ひろげよう！子育てひろばのわチラシ」「資料2-2 参加者総数まとめ」となっております。不足等はありませんでしょうか。

続きまして、本日の委員の出席状況を確認させていただきます。本日は大伴副会長、吉田委員よりご欠席のご連絡をいただいております。また、山科委員が都合によりご出席いただけないため、東京都多摩府中保健所より高橋様にご出席いただく予定でしたが、先ほどご連絡をいただき、都合によりご欠席となりました。同様に原田委員も都合により欠席のため、ふちゅう子育て応援団連絡会より成川様にご出席いただいております。こちらの会議については、代理出席が認められないこととなっておりますが、本日は成川様からご報告いただきたい議題がありますので、会議の要綱に従って報告者という形でご出席いただいておりますので、よろしく願いいたします。

また、会議の傍聴についてですが、府中市附属機関等の会議の公開に関する規則に基づいて傍聴者を募集したところ、傍聴の申出はありませんでした。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、次第の「1 挨拶」ですが、会議の開催に当たりまして、子ども家庭支援課長（兼）子ども家庭支援センター所長よりご挨拶申

しあげます。

○事務局 皆様、こんにちは。大変お忙しいなかご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より子ども家庭支援センター「たち」の運営にご理解、ご協力を賜りまして、厚く御礼申しあげます。

本市では、子ども・子育て支援計画を5年期間で作成しておりまして、第1次が3月で終了となります。4月からは第2次計画が実施となります。基本理念といたしまして、次代を担う子ども一人ひとりを生まれる前から大切にするとともに、子どもの意見を尊重し、その最善の利益を優先しますということを掲げまして、その中で6つの基本目標を定めております。そのうち、子ども家庭支援課、これは母子保健を含む形になりますが、2つ該当するものがありまして、1つは地域で安心して出産し、子育てができる環境の整備、具体的には子育て支援に関する情報提供、相談体制の充実、また、子育て支援拠点の整備などがあります。

もう1つといたしまして、配慮が必要な子どもと家庭への支援ということで、児童虐待の未然防止、早期発見の取組、また、被虐待児童やその家族への支援が盛り込まれております。この計画の中には「たち」、母子保健に関する様々な取組を挙げておりますので、我われといたしましては、その計画に則って、今後もよりよい子ども家庭支援センターの運営に努めてまいりたいと思っております。本日、後ほど今年度の子ども家庭支援センター運営に関する報告をさせていただきますが、皆様から忌憚ないご意見をいただくなかで今後の運営に生かしていきたいと思えます。簡単ではありますが挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

○事務局 それでは、これより先の議事の進行につきましては会長にお願いいたします。

○会長 本日は2つ議題がありまして、1つは12月までの実績報告、1つは子育てひろば交流会の報告となります。1番で交流会のことも出てきますが、交流会のことは2番で皆様から様子を教えていただいたり、お知恵をいただいたりしたいと思いますのでよろしくお願いたします。

それでは、次第に従って議題の1番、令和元年度府中市子ども家庭支援センター事業の実績報告についてご説明をお願いします。

○事務局 それでは資料1をご覧ください。こちらの議題では、今年度子ども家庭支援センターで実施している各事業について、途中経過となりますが12月末現在の実績を報告させていただきます。表の右側が今年度の12月末時点の実績、左側が昨年度、平成30年度の実績となります。比較しやすいよう、平成30年度の実績についても当時の12月末時点のものを掲載しています。

それでは、資料1に沿って事業ごとに説明させていただきます。なお、「15 子育てひろば交流会の共催」については、次の議題で説明してご質問やご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いたします。それではお願いたします。

○事務局 それでは、資料1の1番から6番までご説明させていただきます。1番、交流ひろば事業です。上段が「たち」の交流ひろばの登録者数と延べ利用者数です。登録者が3,809名、延べ利用者数が86,236名。地域の中で恒常的に開いている子育てひろばなど、保護者とお子さんが過ごせる場所が増えているということで前年度より利用者の減少がありますが、回

数は減ったものの入館制限を実施せざるを得ないような日もあります。続いて、「しらとり」のオープンルームとしらとりひろば。武蔵台にあります「しらとり」で行っているもので、オープンルームについては実施回数、参加登録数とも前年度程度で、しらとりひろばについてはやはり若干の減少傾向が見られます。こちらについても、北山保育所ではぐを開設したということで利用者の減少が見られます。

2番はころりんクラブ。「たっち」で実施しております、第1子の0歳児とお母さまにいらしていただく交流会です。4・5か月のお子さんで行っている小さい子どものグループについては、年3回のうちすでに2回実施しております、95組193名の参加がありました。下段は5・6か月のお子さんとお母さんを対象にしたもので、103組209名の参加がありました。

続いて、3番がはいぼ。1歳児の第2子のお子さんとお母さんを対象とする、交流ひろばで実施している交流会になります。こちらは年に2回実施しております、すでに実施しています。1歳児の前半コースについては、組数が昨年度に比べて半分くらいになっていますが、5月に開催したときに申込者数が非常に少ないこともありまして、前半、後半と分けずに1グループにして実施し、4コースあるのが今年度に関しては3コースになっているため、参加者数の減少があります。ころりんクラブ、はいぼにつきましては、広報等の見直しをしております、利用者への案内方法等を工夫していきたいと思っております。

4番、カンガルータイム。ようこそ赤ちゃんは経産婦世帯に参加していただいて、助産師をファシリテーターに行っている講座になります。日曜日の実施でお子さんにもできるだけ参加していただくということで、お子さんを含めて7組20名の参加となっています。2歳児のイヤイヤとどう付き合う？は、第1子1人、2歳児1人をお育てになっているお母さんにいらしていただき、臨床心理士にファシリテーターとして参加していただいて、2日間同じメンバーで集まっていたくものになっています。お子さんの託児をしながら、お母さんたちの講座と交流を行っているものになります。次に、パパと遊ぼう。年に2回実施していますが、12月末の時点では1回の実施になっていて、12組24名の参加がありました。2回目については1月に開催をしております。続いて、きょうだい育て。2歳のお子さんと、下にごきょうだいがいらっしゃる方に集まっていたいで行っている講座になります。こちらも同じメンバーで2日間開催し、12組23名の参加になっています。

5番、リフレッシュ保育です。保育室での一時預かりを行っております。こちらは、12月までの登録者数が322名、延べ利用者数が1,777名で、前年度より減少しております。府中市の待機児童数が減っている、対象年齢の人口も減っている等ありましてこういった形になっているかと思えます。

6番、ファミリー・サポート・センター事業になります。提供会員、両方会員、依頼会員を含めた12月末時点の会員数が2,223名、活動件数が3,285件。活動件数につきましては、提供会員の方からのご報告をもって件数に挙げているので、これよりも若干件数が多いと考えております。以上です。

○事務局 7の要保護児童対策地域協議会ですが、会議回数は昨年と同様です。個別ケース検討会議は99回で、昨年同時期に比べ約1.5倍になっています。問題家庭が増えるなか、多くの関係機関と情報共有し、役割分担する機会が増えたことや、児童相談所の一時保護解除、入所施設からの家庭復帰等に伴い、子どもがスムーズに地域に戻れるネットワークづくりの一環として

開催される場合が増えたことによる増ととらえております。

8の子ども家庭支援センター運営会議は1回開催しました。

9の子ども家庭サービス事業につきましては、ショートステイ事業、トワイライトステイ事業ともに増加しております。

10の児童虐待防止ネットワーク事業は、助言者に入っていただく事例検討会を11回、関係機関研修会を2回実施し、今後内部研修会を1回予定しております。市民向けの子育て支援講演会を、関係機関向け研修会と同時開催で1回実施しました。

11の親支援事業は、育児不安を持つ親のプアマナグループと、軽度虐待をしている親のフルールグループ、子どもへの対応に苦慮している親のペアトレグループの3グループに分けて計39回実施し、延べ121人の参加がありました。また、委託先法人で行っている親子でグッドコミュニケーションは2回実施し、延べ人数46人となっております。

12の育児支援家庭訪問事業は、訪問員登録者が27名、NPOは2団体です。子どもの対応や学習支援は保育士や教員、大学生が、また、保育所入所や病院受診につながるまでの家事の支援はNPOが対応し、看護師や保健師は保護者に精神疾患があるケース等に対応しております。訪問対象世帯は58世帯、訪問回数は572回となっており、前年度より減少しております。

13の総合相談事業は869件となっております。相談内容では、昨年10月から児童相談所から子ども家庭支援センターへの送致も始まり、虐待件数が251件と増加しております。また、養育困難ケースも386件と増加しております。

14の子育て支援ボランティア養成講座は表のとおりです。資料1についての説明は以上となります。

○会長 ありがとうございます。ご質問等があれば受けたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 府中市に乳幼児から就学前までの子どもはどれくらいいますか。例えば、乳児はどれくらいいるか教えてください。

○事務局 去年の4月1日現在ですので若干現時点とは誤差があると思いますが、0から4歳までだと10,835人、5から9歳が11,719人です。

○委員 資料に参加人数があったので、子どもがどれくらいの割合で参加しているのかと思って聞きました。例えば、地域によって子どもが多いところ、いないところがあると思いますが、場所的に親が集まりやすいなど、そういうことも多少あるのかと思ったので聞いてみました。

○事務局 3・4か月のお子さんの人数であれば、平成30年度の乳幼児健診の3・4か月検診の数でお答えします。平成30年度は2,013名を対象に通知を送っております。今年度はもう少し少なくなっています。

○委員 対象者は約2,000人いるが、参加者はあまり多くないということでしょうか。

○会長 府中市にここしかなければ参加者は多くありませんが、ほかにも保育所や子育てひろば

を民間で行っているところもあります。総数でどれくらいという調査はありますか。

○委員 基本的にひろば事業の統計の取り方が延べの利用者数になってるので、実人数が取れていない状態です。何%の子どもが利用しているという統計資料はありませんが、本市が委託又は直営で行っているひろばに関しては、保育園や「たち」「しらとり」のひろばを含めて86,000から87,000くらいが年間の延べ利用件数になります。これは0から5歳のお子さんの件数ですが、8、9割は3歳未満のお子さんになっていると思います。

○会長 先ほど子ども・子育て支援計画のお話がありましたけども、策定に際して実人員を調べるところもたまにあります。地域によっては4割くらい利用しているところもあったりしますが、評価は難しいです。利用者数が多ければよいというわけではなくて、保育所や幼稚園、子ども園できちんと子育て支援を行っているところはそちらで需要が賄われるので、必ずしもひろばに行かなくとも子育ての支援は行われているということもあります。

○委員 民間で行っている子育て支援の報告は市にありますか。

○委員 補助金を交付している団体に関しては当然実績報告をいただいています、市内に4団体しかなく、それ以外の民間の団体に関しては実績のとりまとめまではされていないと思います。

○委員 府中市全体がどうなっているかははっきり分からないということですね。民間でもよく行われていると思いますが、この資料だけを見ると府中市の子育て支援がどのように行われているか分かりづらいので、そういうことが分かってよいと思って質問しました。

もう1つ、募集人数について、例えばころりんクラブではどれくらい募集していますか。

○事務局 ころりんクラブにつきましては各16組を定員にしている、はいぼに関しては各14組を定員にしています。申込者数が回によって違うので、今実施しているころりんクラブは20組で実施していたりするなど、対応できるところで臨機応変にしております。

○委員 定員16組にしては実績が多くありませんか。

○事務局 ころりんクラブが3回連続の交流会ですので、これは計6回分ということになります。

○委員 募集の見直しという話がありましたが、例えばどういうことですか。

○事務局 募集のときには広報に掲載したり、「たち」所内への掲示、メール配信、ホームページへの掲載を行っていましたが、その都度行っていたというところがあったので、年間のスケジュール表を作って、「たち」の利用登録の時点で対象の月齢に当たりそうなお子さんにお配りするとか、保健センターに置いていただくということを行っているのと、申込方法について往復はがきという形をとっていたのを、来所して直接お申込みいただくという方法もとるようにしまして、申込みやすくしています。

○委員 この資料に、例えばこういうところは今年度よかった、マイナスだった、続けていったほうが良いというものがあるともう少し分かりやすい気がします。この報告を聞いても資料を見れば分かると感じたので、そういうものもあると、今の府中市の子育て支援の問題点などもっと明確に分かると思いました。

○事務局 今行っている事業につきましては、お子さんの年齢やテーマ、内容によって必要とされるものを毎年工夫しながら展開しているところです。人数だけで測りきれないものも当然ありますが、資料1の事業のうち、来年度変えるもの何かというところで申しあげますと、アンガーマネジメントという怒りを抑えることをテーマとした事業を新たに開始しようと思っています。それは普段、総合相談を受けるなかで、親の怒りを抑える手助けができれば児童虐待の防止につながるのではないかとということで新たに行うものです。

そのほかの事業につきましては、基本的には今と同じ内容で行いますが、10番の児童虐待防止ネットワーク事業について、関係機関の研修を毎年2回行っていますが、春に行うものは保育所、幼稚園、学校等に新任で来られた方によく参加していただいて、児童虐待防止に向けた基本的な内容をお聞きいただいています。後半に行うものに関しては、今年度は子育て支援講演会と同時開催で行いましたが、参加者が少なかったということもあるので、来年度はテーマ、対象、開催日時を含め、試行錯誤して展開していこうと考えています。今年度は1人の講師がお話をされましたが、様々な立場の方からご意見をいただくためにパネルディスカッションのような形で行ってはどうかと考えているところです。

繰り返しになりますが、実際に行っている事業で、総合相談は別にして、親子を対象にした事業については委託先法人でも様々な考えややっていただいておりますので、同じ事業名であっても内容に変化を加えながら、何が必要なのか、何が求められるのかを把握しながら進めているという状況です。

○委員 7番の要保護児童対策地域協議会の個別ケース検討会議99回という数と、10番の児童虐待防止ネットワーク事業の事例検討会11回という数の差をどう認識すればよいかということと、事例検討会は保健センターと行うものだったでしょうか。

○事務局 要保護児童対策地域協議会の個別ケース検討会議は、そのケースにかかわっている関係機関に集まっていたりして支援方針、役割分担等の確認を行ったりする会議です。児童虐待防止ネットワーク事業の事例検討会は、内部の勉強会に近い形で、自分たちがかかわった2、3ケースについて、先生を呼んでスーパーバイズを受ける会になります。

○委員 虐待に関しては社会的にも厳しい見方をされていると思いますが、どのような現状なのか、おっしゃられる範囲で教えていただければと思います。

○事務局 府中市ではこれまで身体的虐待が多かったのですが、ここに来て面前DVや目撃による心理的虐待が増えてきております。去年の10月から、児童相談所から子ども家庭支援センターへの送致が始まっておりまして、それは児童相談所に通告が入った案件の中で警察からの書類

通告というものがあまして、夫婦喧嘩が激しいので警察が呼ばれて、そこにお子さんがいて目撃していた場合は心理的虐待ということで児童相談所に通告が行きます。その中で、子ども家庭支援センターが対応したほうがよいだろうと判断されたケースについては児童相談所から送られてきます。近隣からの泣き声通告も、子ども家庭支援センターが対応したほうがよいと判断されたケースに関しては送られてきていまして、10月から今現在で20件くらいですが、その対応も増えてきている現状です。そういう影響もあって、心理的虐待が増えてきていると予想されま

○会長 全国的にも、警察が面前DVを児童相談所に連絡をするようになって以降、心理的虐待が急増しています。それまでは身体的虐待が1番で、2番にネグレクトが来て、心理的虐待はそのあとくらいでしたが、心理的虐待が1番になって、その要因は圧倒的に面前DVです。ですので、虐待一般が増えたという話でもありません。虐待死については、全国的には増減しつつ減っています。府中市でも取り組まれているので、取扱いの件数は増えていますが家庭の安定度という点ではどうでしょう。継続的なケースも含めて対応できつつあるのではないのでしょうか。

○事務局 件数は増えているので、関係機関の協力なくしては難しいので、学校や保育所、幼稚園で見守りながら、何か変わったことがあればすぐに連絡をいただくというところで、協力体制はできてきつつあると思います。

○委員 男女共同参画センターでも女性問題相談を行っておりまして、ここ数年は暴力を伴うDVに関する相談件数が増加している傾向にあります。認知度が高まったとか、相談してもよいという考え方が広まったと捉えればよいのでしょうか、件数が増えて良い部分と悪い部分があると思います。

○会長 子どもへの虐待もそうですが、社会の認識が変わってきて、面前DVがよくないということが分かるようになったので、そういう意味では相談が増えていることは早期に対応、介入ができるのでよいと思います。

○委員 昨年3月に府中警察署と児童虐待の未然防止に向けた協定が締結され、もうすぐ1年を迎えます。お互いの情報の照会等が盛り込まれていたと思いますが、協定を結んでからの成果はいかがでしょうか。

○事務局 警察の中でも、少年係とは密な連携がとれておりまして、住民基本台帳の照会はもちろん、警察でできること、子ども家庭支援センターでできることについて相談ができる関係になってきたというところがあります。ただ、DVやストーカーの案件に関しては、少年係以外のところになりますが、警察は即動くというところがあるので、そこの情報の取扱いは慎重にならざるをえないところがありまして、そのあたりが課題かと思えます。

○委員 交流ひろば事業ですが、市外の方も利用できたかと思えます。利用者が減少しているということですが、市外の方の数がどうなっているか教えていただきたいのと、リフレッシュ保育

も市外の方は使えたでしょうか。近隣の市にはリフレッシュ保育というものは無いと思うので、市外の方の利用の状況を教えていただきたいと思います。

○事務局 数でいえば、交流ひろばに関しては市外の方も同じように減少しています。また、利用者に占める割合は、15年間の傾向でいうと若干市内の方の割合が高くなってきています。市外にも過ごせる場が増えているということかと思います。リフレッシュ保育に関しては、市外の方のご利用はあるにはありますが、市内にお子さんから見て3親等以内のご親族が住まわれていることが利用の要件になっているので、交流ひろばだと市外の方の割合は3割くらいありますが、リフレッシュ保育では1か月に数人いるかいないかというところです。

○委員 リフレッシュ保育には、1日の利用人数に限度がありますか。

○事務局 リフレッシュ保育と名がついているとおり、1日4時間、1か月8日間までという限定があります。定員に関しては、1時間当たり8名になっています。4時間取られる方、1時間しか使われない方とまちまちですが、1時間に8名までという形でご予約を受け付けています。

○委員 資料の各事業について、対象年齢の子どもの数が載っていると、対象年齢の子どもの数が減っているから参加者が減っているというように分かりやすいと思いました。

リフレッシュ保育には対象年齢があるのでしょうか。

○事務局 満1歳から小学校入学前までです。

○委員 虐待対応についてですが、以前「たち」から子どもの様子を教えてほしいということで電話がありました。どこからか通告があったのか聞いたら、保護者自身から相談があったということでした。そこでお聞きしたいのは、相談があったのは幼稚園に連絡をくれた直前だったのか、間があったのか。もし、保護者が相談してすぐに連絡をくれたということであれば、それからしばらく子どもの様子を確認することができるのですが、ある程度間があつて子どもの様子はどうかと聞かれてしまうと、やはり子どもの様子は担任が一番よく分かっているのですが、保育中だとすぐに担任が対応することができないこともあります。

○事務局 緊急受理会議というものを行いまして、虐待だったり養育困難だったり、調査が必要と判断した場合連絡させていただいております。相談を受けてからすぐに調査をすることが大半ですが、相談を受けた者の判断に左右される部分もあります。ただ、1週間に1回、対応したケースを全員で確認し合う会議がありまして、共有するなかでこのケースはもう1回対応したほうがよいという意見が出た場合には、1週間以上経っていることもあります。各施設に連絡した際にそのあたりをお伝えできればよかったですと思いますので、今後注意していきたいと思います。

○会長 緊急事態のときに、危機管理のために子ども家庭支援センターが関係機関から情報をもって、当面对応しないといけないことを判断するということは当然行われてきたし、これからも行われていきますが、その時期を過ぎたないしはその時期に至るまでのところで、どれだけの

関係機関と連携をしていくのかというところには難しい線引きがあります。ただ、保育所や幼稚園、学校には問題を解決する力もあるので、情報を提供するだけでは持っている力を使い切れていない気がします。そこを何とかしなければ、深刻になるまでは社会は関与しないということになってしまうので、大きな課題だと思います。

○委員 私も保育園に勤めていましたが、虐待対応については、縦のつながりや横のつながりがあいまいなところもあるような気がしました。例えば保育園で虐待を見つけたら、すぐに市役所に電話して、そうするとすぐに職員が来てその子の状況を調べるという形ができていたから即対応できていたのですが、遅くなるとそのあたりはどうなっているのかといつも思っています。

○事務局 連絡を受けたら48時間以内にお子さんの確認をするというところで行っておりまして、市内の関係機関にも周知されて、保育所や幼稚園、学校からの連絡も増えてきております。

○委員 それを段階的に解決していくということを行っているということですか。

○事務局 緊急性が高いとか一時保護が必要だと判断した場合は、児童相談所に連絡をして保護に動くケースもありますし、お父さん、お母さんと相談しながら対応を改善する方法を地域で一緒に考えていくということも行っております。また、親支援事業につなげるケース等もありますので、そのあたりはできてきていると思います。

○委員 それでも虐待は減っていないということですか。

○会長 様々な調査研究があつて、実は減っているのではないかという研究もあるのですが、市民がないしは関係機関がきちんと通報するようになってきたので受理件数は増えていたりするので、単純に増減の話ではないと思います。ただ、社会は無力ではなく、関係者ががんばってきているので、単純に虐待が増えているわけではないということまではいえると思います。

○委員 7番の要保護児童対策地域協議会の個別ケース検討会議99回は延べ回数ですか、実人数ですか。

○事務局 同じ人のものが多くて3回入ってるかもしれませんが、ほとんど実に近い回数ととらえていただけて結構です。

○委員 市民からの通告も増えているというのは民生委員として実感しております。「たち」からお電話をいただきまして、来所すると担当者は電話に出ていますというのがしょっちゅうありますので、皆さんは大変だと思っておりますが、様々なことをしていただきまして、府中市での子育ては安心だと思っております。

○事務局 虐待の数からすると府中市にはまだたくさんあるのではないかと、「たち」はどこまで対応しているのかと不安な面もあるかもしれませんが、ただ、関係機関からの連絡を密にいただく

ようになったということは非常に大きいと思います。子どもを預かる施設としては、これは虐待なのか、疑ってどこまで行ってよいのかというところの不安があったと思いますが、通告するのが施設の義務だということの認識を持っていただいているところがほとんどになってきて、相談件数が多くなっているのだと思います。相談件数が多くなればよいのか、少なくなればよいのかというところはありませんが、多くなるということはそれだけ気にかけている人が多くなっているということです。

それに対して、「たち」の相談員は平均すると1人が継続件数を含めて100件くらいのケースを持っています。人的なキャパシティにも非常に苦しいこともあって、来年度に向けて人員の増員を検討しているところです。

48時間以内に現認するというところがありますので、通告が入ると、生活環境など虐待や養育困難につながる様々な可能性を調べて、そのうえでどのように進めていくかというところを取り組んでおりまして、相談員も当然天気など関係なく必要であれば外に飛び出して対応しているところでもありますので、至らない点があるかもしれませんが、「たち」といたしましては今できる最善の対応に努めているということをご理解いただければと思います。

○会長 東京のある自治体で、福祉事務所で把握していた家庭にもかかわらずお子さんの状況を十分把握しておらず、子ども家庭支援センターとの連携が取れていなかったということもあったので、とくに子どもの貧困との関係で、貧困家庭は比較的虐待に発展していく可能性が高いので、そういう可能性があるところについても引き続き取り組んでいただきたいと思います。

私から3つだけアイデアを申しあげるとすると、交流ひろばやころりんクラブなど交流を軸にしている事業について、人数で把握することは大事なのですが、去年と今年とを比べて増えているか減っているかということしか分からないので、アンケートのような簡単なものでよいので利用者の交流に関する調査をされていればそれが評価基準になるとと思いますが、どうでしょうか。

○事務局 交流会につきましては、開始当初から毎回同じような形でアンケートを取っています。その中で、知り合いができたかとか、回全体の満足度を測っています。交流ひろばについてもアンケートは実施していますが、ひろばに来てどうだったか、スタッフの対応はどうだったかというようなものになっているので、どのようにつながりができたかというところをどう測るか、今考えているところです。

○会長 国が掲げる4本柱から聞くというのが一番単純だと思います。

それから、事例検討会ですが、それぞれの機関に新しく配属された方たち向けに多職種連携の研修があるとよいと思っています。児童福祉の分野にはあまりありませんが、高齢者福祉の分野には当たり前のようにあって、いわゆる事例検討と決定的に違うのは、専門性が違うとどのように視点が違うのかがはっきりと分かることです。例えば、心理職の方はどういうところに軸足を置いてどういうところが見えているが、ほかの専門職の方たちには見えてないとか、ソーシャルワーカーや医師など、お互いのことは何となく知っているけども、その方が見えていることがほかの方には見えていないということがあって、それが総合化されると子どもの権利が保障されることとなります。そういう方たちが違いを意識して、多職種を尊重するという意識を事例検討をするとうまくいくと感じています。

最後に、ボランティアの研修ですが、去年と今年とテーマは違いますよね。例えば、子育て支援拠点等でボランティアとしてどのように取り組むか、どのように声掛けを行うかというようなものもあるでしょうが、それ以外に乳幼児の親を支援するためのテーマを毎年変えて行ってらっしゃいますよね。例えば、屋外での遊びというテーマで行ったことはありますか。

○事務局 「たち」にいらしているボランティアに声掛けをしたりすることもあって、「たち」では現実的に外遊びができないということもあって、屋外に関しては今のところ行っていません。今まで、読み聞かせだったり手遊びだったり、色をどのように活用するかというようなものを行ったり、臨床心理士の方に来ていただいて、お子さんとかかわり方について遊びのことも含めて行ったりしています。ただ、これは「たち」だけではなくて市内で活動している方向けのものなので、そういうことも含めて考えてよいと思います。

○会長 子育て支援拠点には園庭がないところが多いので、とくに東京などの場合は、意図的に屋外を意識しないと子どもの遊びが屋内化してしまいます。そうすると、情緒の安定が図られなくなったり、体を使わない遊びが増えて体が元気ではなくなったりします。また、屋外の遊びは、屋内ほど物を壊す心配をしなくてよいし、人に迷惑をかけることもないので、親が子どもを叱らないで済む確率が高いものが多いです。そういうこともあって、目先を変えてみるのもおもしろいと思いました。

では、2番目の議題に行きたいと思います。子育てひろば交流会についてです。

○事務局 それでは資料2-1、2-2をご覧ください。先ほどの資料にも実績を掲載していますが、市では例年、ふちゅう子育て応援団連絡会という団体の方々と協働して「ひろげよう！子育てひろばのわ」というイベントを開催しています。ふちゅう子育て応援団連絡会は、市内で子育てひろばなど子育てを支援する活動を行う方々が、各々の活動や子育て情報について情報交換を行う目的で集まっている団体です。そして、この連絡会が子育てを行う家庭に各々の活動を周知したり、子育て情報を提供したりするために開催しているのが「ひろばのわ」です。市では子育て家庭を応援し、子育て家庭の孤立を防ぐというイベントの目的に共感し、協働として会場提供や広報協力を行っています。

前回の運営会議で会長よりご説明いただいたとおり、子ども家庭支援センターには相談や虐待の対応を行う個別支援とは別に、地域支援という役割があります。地域における子育てを支援するというものですが、「ひろばのわ」の開催は「たち」が行う重要な地域支援の1つです。

こちらの議題ではまず、今年度実施した「ひろばのわ」についてご報告いただきます。その後皆様からご質問やご意見を伺い、よりより「ひろばのわ」の開催に向けて参考にさせていただくとともに、皆様で「たち」の地域支援について理解を深める機会とさせていただきたいと考えています。

それではまず、ご報告いただきたいと思います。なお、資料2-1は今年度の「ひろばのわ」のチラシ、2-2は参加者数の集計となりますので、適宜ご参照ください。

○発表者 ふちゅう子育て応援団連絡会子育て会議といいますが、市内の子育てひろばやサークル、また、助産師会や社会福祉協議会など、様々な団体が集まって月に1回情報交換会を行って

いる会議があり、その中で年に1回、子育て情報、自分たちの活動情報をお母さんたちに提供して楽しんでもらおうというイベントを行っています。

参加人数等は資料のとおりですが、去年は9月27日にルミエール府中で開催しました。コンベンションホールのA・B・C・Dとロビーを借りて行いました。資料にタイムスケジュールがありますが、基本的に子育て会議に参加している団体が出展するというもので、例えばイベントひろばの抱っこ紐ビクスというのは、普段抱っこ紐ビクスというのを行っているサークルがあるのですが、赤ちゃんを抱っこ紐で抱っこしながらエアロビクスをするものです。そのほか、アンガーマネジメントの講習会や消防署による救急救命講習など大きなイベントを行うと同時に、小さいスペースで読み聞かせやエプロンシアターのような小さい子どもと一緒に遊べるスペースがあったり、毎年助産師会に相談コーナーで行ってもらっている、ハンドマッサージを受けながら1対1でゆっくりと様々な相談を行えるというスペースも確保しています。幼稚園と保育園のパンフレットをメンバーで手分けをしていただきにあがって紹介するというも行っています。

去年は35団体、41人くらいのスタッフが参加しています。毎年規模が大きくなっているのので、運営会議に参加していらっしゃる方もっとも参加して下さるとよいと思っています。

○事務局 昨年9月に行われました「ひろばのわ」をご紹介いただきました。「たち」と子育て支援の団体との協働事業の一大イベントということで行っておりますので、皆様の意見が今後の取組にもかかわってくるというところもありますので、何かお気づきの点等がありましたらご質問を含めてお願いできればと思います。

○委員 平日に行っている理由は何かあるのでしょうか。

○発表者 今までも何度もお話があつて、例えば土日でない働いてるお父さんお母さんが来れないという意見もたくさんありましたが、子育て会議で話し合ったなかでは、平日に1人であるお母さんたち、とくに子どもが0歳から3歳までの幼稚園や保育園などに行っていないと孤立化しやすい子育て世帯のお母さんたちのためのイベントという意味合いが大きい、子育て向けのイベントは土日にはたくさんあるけど平日にはあまりないという意見もあつて、今はまだ平日に行う方向で進めています。

○委員 今回私が知り合いにこのイベントを紹介したところ、保健センターの離乳食教室と重なっていて長時間は難しいというお答えがありました。私も1回行かせていただいて、盛況でたくさんの方に参加していただきたいと思うのですが、市内の方の参加状況としてルミエール府中の近くの方の数が多くて遠い方が少ないところを見ると、行きたい気持ちはあるけどまだ1人で出る自信がないとか、平日に出られないということもあると思いますが、府中駅からルミエール府中が距離があるというところもあるかもしれないと思いました。

○発表者 ルミエール府中にこだわっているわけではなくて、最初がそうだったので引き続き会場はルミエール府中なのですが、会場としてできるところであれば公園で外遊びでもよいと思っています。年々参加団体、来場者数が増えてきているので、ある程度のスペースがないとできないというところはあります。

○事務局 離乳食教室と重なってしまったのですが、保健センターから近かったので、離乳食教室から行かれた方も数名いらっしゃいました。

○委員 複数日開催するというようなお話は出たりしたのでしょうか。

○発表者 それもたくさん話が出ました。例えば金曜日と土曜日はどうかという話も出たりしましたが、子育て会議に参加している子育てひろばやサークルには子育てをしながら活動している普通のお母さんが多く、子どもも預けながら来たりとか子どもを連れて来たりとかして、準備段階から半年くらいかけて行っているので、2日開催だと疲弊してしまうということで1日開催に落ち着いています。

○事務局 会場については、ルミエール府中は府中駅から距離があることもあって、このイベントに行く目的の人しか来ないということもあると思います。例えばプラッツなど、駅の近くで行うと通行人なども入ってこられるということがあるので、参加者の増につながると思います。

○発表者 ルミエール府中にはルミエール府中のメリットがあって、中央図書館があるのと、地下に駐車場があり、隣に府中公園があるので来やすい環境だと思います。

○委員 楽しそうで、近かったら私も行きたかったと思いました。これだけの人数が来ていますが、人数的にはもっと受け入れられますか。

○発表者 私は、今年は1,000人来てほしいと思っています。例えば保育園や幼稚園の情報も紹介したりしていますが、自分ではなかなか全部の園には行けなかつたりするところが、このイベントに来ると全部の園のパンフレットが見られるというところもあるので、足を運んでもらいたいと思っています。

○委員 今年の開催日は決まっていますか。

○発表者 9月25日です。毎年9月の最終金曜日に行っています。

○委員 参加状況を見ると、北山町や西原町など中心市街地から離れている地域の方は参加しづらいのだと思います。もし、会場の検討が可能であれば、今年は西地区、来年は東地区というように年によって地区を変えるのはどうでしょうか。例えば西地区であれば、男女共同参画センターは地下駐車場の利用料が2時間500円で、中河原駅の近くで子どもの遊び場もあります。また、中地区であれば、プラッツはちゅうバスでどこのエリアからも参加できるというよさがあります。

幼稚園のことでお母さんが知りたいのは、パンフレットだけではなくて生の声だと思います。先輩ママたちがパネラーになって、この幼稚園のこういうところがよいというような情報を教えてあげられるとよいと思います。

○発表者 例えばまだ0、1歳だと、幼稚園について想像がつかないかもしれませんが、園庭解放や未就学児教室のようなものはあるので、そういうお話ができたりするとよいと思います。

○委員 力のある人は、お腹にいるときからパンフレットをもらっていて、はぐにもいらっしやっています。協働でひろばツアーのようなものができて、生まれる前から府中市で子育てがしたいと思ってもらえると素敵だと思います。

○発表者 このイベントも、最初は10団体くらいで会議室1つ借りて始まりました。それが年を経るごとに少しずつ参加人数が増えていって、気づいたらこの人数になっていたという状態なので、実は準備段階での役割分担等がまったくできていません。やれる人がやって、やれる人がいないときは数人で集中してやるという状態になっていて、負担が大きくなっています。今年ももう時間がないのでそうなってしまっていますが、今年の今の段階で来年の「ひろばのわ」について話し合っていこうというスタートラインに立ったところです。図らずもこんなに大きなイベントになったので、そうしていかないと体制が維持できない状態です。ですので、できるだけたくさんの方に参加していただけたらうれしいです。

○会長 民間主導ですが、行政が相談窓口の看板を掲げていたり、ある区では子ども・子育て会議として出展しているところもありました。それは府中市らしく行えばよいと思うので、会場を変えるなどリクエストを言ってみてはどうでしょうか。

○発表者 大きい公園などで外遊びのパターンも、天気がよければできたらよいと思います。去年はちょうど保育園の申込みのしおりが配られる直前だったので、保育支援課に来ていただいてお話をしてもらったのですが、大きい会場でマイクを持ってしゃべってもらっただけだったので、相談したい人はたくさんいると思うので、個別相談のようなものを行いたいと思っています。助産師会の相談コーナーも人気ですぐ埋まるので、スタッフを2人ずつから5人ずつなどに増やせたらよいと思います。

○委員 傷害保険というのは市が入ってくれるのですか。

○発表者 そうです。名前、住所、電話番号を当日に受け付けます。

○委員 これまでにけがをして保険を使ったことはありますか。

○発表者 ありません。

例えば、幼稚園はこういうところにブースを出すということは難しいですか。

○委員 幼稚園協会として可能かもしれません。

○発表者 周知についても自分たちでもそれぞれの活動の中で配ったりしてるのですが、限界が

あるので市で広報に出してもらったり、ホームページに載せてもらったりしています。

○事務局 様々なご意見をいただいて、皆さんにもよい事業だと思っていただいたと思います。会場の問題がありましたが、協働の1つの方法として、会場は「たち」が押さえるということで予算を確保しているところですが、全市的なイベントということになると、事業自体を大きくとらえなくはいけないとっていて、「たち」の単独予算というよりも、市の補助金を活用して事業を組み立てていくというのも1つだと思っています。ただ、補助金は時限的なものなので、将来的にどうするのか、そこまで考えるうえで補助金を活用するのであれば一緒に考えていきたいと思っています。こういう事業は、市が直接行うよりも、市民の方々が手を取り合って行っていただくほうがお母さんたちからしてみても身近な存在になると思います。今後さらにより事業になるように話し合っていければと思っていますので、皆さんも何かご提案等がありましたらおっしゃっていただければと思っています。よろしく願いいたします。

○発表者 10年以上行っているイベントですが、ふちゅう子育て応援団連絡会という名前のおり、各メンバーがそれぞれの活動を行っていて、その情報交換のために月に1回集まっているのがこの連絡会です。その中でこのイベントを行っているので、もちろんよいイベントで1年かけてこれをメインに活動しているのですが、そのほかの月に1回の情報交換会も大事にしています。例えば、昨日は子育て応援課に来ていただいて、府中市の子育て支援について教えてもらったり、今週木曜日には、ひろばやサークルでは実際にお母さんたちと接する機会が多いのですが、お母さんの中には愛着障害があったり発達障害のお子さんを持っていたりする人もいますので、接するのが難しい人に会ったときにどうしたらよいかという勉強会を専門家を呼んで行ったりしています。ですので、本当は全市的なイベントを行って、府中市にいる困っているお母さんたちに来てもらいたいのですが、私たちもお母さんなので、そこまでなかなかやりきれなくて、できる範囲でやりたいというところもあって難しいところです。

○委員 この連絡会には、今何団体くらいいますか。

○発表者 45団体くらいいると思います。でも、入れ替わりがよくあります。今年に入ってもう3、4団体入っていますが、その間に何団体かやめています。子育て支援のサークルやひろばは続けるのがすごく難しいのと、自分の子どもが小さいときに参加していた人が、子どもが成長するにつれて興味の対象や生活のリズムが変わってやめていくことも多いというところで、初期からいる団体もあまりいないので、だからこそたくさんの方々に参加していただいているというのがあります。やめるならどうぞという状態だからこそ、様々な方々とコミュニケーションをとれる会になっていると思います。

○委員 せっかくこのように立ち上がっているのです、これが継続できるように市としても応援してほしいと思います。

○会長 市民の活動は盛り上がったたり盛り下がったりするので、それは大前提にしないと、盛り上がり続けているような状態をつくると、裏では全部行政が行っているということもあります。

全部行政が行ってしまうと、きれいに見えますし、きちんとできますが、手作り感がありませんし、本当の盛り上がり感がありません。

今年度もまた準備に入っていかれると思うので、ぜひこちらにいらっしゃる方もご協力ください。こちらにいらなくても、ぜひ皆さんからメッセージを発信してください。

もしなければ、少し早いですが終わりますでしょうか。終わるに当たって、今後のことについて連絡がありますか。

○事務局 事務局から2点ご連絡いたします。1点目は、皆様への出席依頼期間の終了についてです。本年4月末日をもちまして、皆様への出席依頼期間が終了いたします。本年5月以降に開催する会議への出席者については後日推薦依頼を行わせていただきますので、ご配慮いただきますようお願いいたします。なお、次回の会議は令和2年7月を目途に開催する予定です。

2点目は、個人番号の提供書についてです。本会議の開催通知とともに個人番号の提供書をお送りした方については、謝礼の支払いに伴い個人番号の提供書の提出が必要となりますので、本会議終了後私までご提出ください。その際、番号確認等のため個人番号カード等を確認させていただきますので、併せてご用意ください。なお、本日個人番号の提供書をお持ちいただけていない方については私までお申し出ください。事務局からは以上です。

○会長 それでは、今期はこれで最後になります。長い間ありがとうございました。これで第2回の府中市子ども家庭支援センター運営会議を終わります。